

家庭科における「言語能力」の整理

| 家庭科における言語能力 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生活事象から自身の生活の問題点や課題などを見出し、学習問題を見出す。 ・学習問題について、何を学ぶべきか考え、解決策を見出す。 ・実習や製作などの活動を通して、学びを整理し、考察する。 ・身に付けた知識や技能を整理し、次への課題に結びつける。 |
| 育成方法 |
| <p>①児童自身の中で実感を伴った明確な概念として形作られるようにすること。 →生活の中で生きた言葉となるように配慮すること</p> <p>②生活の様々な事象を実感の伴う生きた言葉として理解することにより、人が営むことのよさやその価値にふれ、生活への完成を高めていくことができるようになること。</p> <p>③言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考えたり、実習などで体験したことを説明したり、表現したり、話しあったりするなどの活動を充実するよう配慮すること</p> |

育成能力とその育成方法

| 言語能力 | 育成方法 | 育成方法の詳細 |
|-------------------------------------|--|---|
| ①生活事象から自身の生活の問題点や課題などを見出し、学習問題を見出す。 | ・学習問題を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活を見つめ、何か問題点はないのか、もっとよりよいものにすることはできないのかなどと問いかけ、学習問題の設定への足掛かりとする。 ・気づきを交流したり、教師が価値付けたりすることで学習問題を見出す。 |
| ②・学習問題について、何を学ぶべきか考え、解決策を見出す。 | ・学習問題に関して、それを解決するために身に付けるべき知識や技能について考える。 | ・学習問題の解決に向けて、具体的に何を身に付けていけばいいのかを考え、解決への見通しをもつ。 |
| ③実習や製作などの活動を通して、学びを整理し、考察する。 | ・実習や製作などの計画、活動などをノートにまとめ、得られた結果をもとに、学習問題の解決に結びつけるようにノートに考察を書く。 | ・結果をより整理しやすくするために、図や表などを活用した整理の仕方を考えてまとめたり、実習や製作などから得られた結果をもとにしたりして、学びを整理する。 |
| ④身に付けた知識や技能を整理し、次への課題に結びつける。 | ・身に付けた知識や技能を整理する。 | ・今回の学びを整理して、次の課題や自分の生活に生かすことができるようにノートにまとめる。 |

小学校第6学年1組 家庭科学習指導案

1 題材名 思いを形に ～生活を豊かにする布製品～（B衣食住の生活(5)）

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は「生活を豊かにするための布を用いた製作」を取り扱う。子どもたちの周りの衣生活を見てみると、布製品は身近なものであり、生活を便利にしたり、彩りを与えたりしており、児童もそのよさに自然と気付いている。児童は5年時から手縫いで小物入れを作ったり、マスクを親子で作ったり、ミシンでランチョンマットを作ったりと、基礎的な製作の知識や技能等を一通り身に付けている。また複数回製作を行ったことにより、裁縫の楽しさや手作りのよさを実感する機会も多く、また、実際に自分で布を使って製作を行ったことで布は再利用できる、何度でも作り直すことができる、布はつなぎ合わせれば大きくなるなどの製作する前には気付かなかった布製品のよさについても実感することができた。「自分が考えて作った、自分しか持っていない布製品」を作る経験は、家族の生活を楽しく豊かにする布製品を作る意欲や喜びを味わわせることができる題材であるといえる。

本校家庭科では学校での学びを基盤としながら、学びを学校から家庭へと広げていき、自分の生活を変えていこうとすること（新たな価値の創造）を目指している。家庭科の学習では、生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力が求められている。既習の2つの題材では、知識や技能を習得したり、その知識や技能を活用して課題に取り組んだりする学習を行ってきており、学びを生かそうとする土台はできている。本題材は、ゆとりやぬいしろの必要性をより理解できる、日常生活で使用する物を入れるための袋を取り扱う。身近であるという布製品の強みを生かしながら、自ら課題を設定し、課題の解決に向けて試行錯誤しながら、学んだこと生かしていこうと、児童が主体的に学びを進めていくことを目指す。そして自分の生活を変えていこうとする児童を育てていく。

(2) 児童について

本学級の児童は家庭科の学習に高い関心をもって取り組んでいる。アンケート調査では、家庭科が好きだと肯定的に答えた児童の割合は100%（34名）と多い。針と糸を使って布製品を製作することを「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と好意的に感じている児童は86%いる。しかし、「どちらかといえばきらい」と答えた児童が14%（5名）おり、「思ったことがうまくできない」「手順が大変」と苦手意識を感じている。児童は「こんなものを作りたい」といろいろと願いをもっているのだが、それを実現することが容易にできる児童もいれば、「どうしたらいいか分からない」「何から解決していったらいいか分からない」と考える児童もいる。自分の理想とする姿に近づくために、この題材ではどのようなことを学んでいったらいいのか、どうすればそれが実現するのかははっきり分かっていないからではないかと考える。

また、本学級の児童は学んだことをすぐに生活に生かしていこうとする姿も多く見られる。実際、食生活の題材では、学校での学びを使って、家で同じものを作ってみたり、別の食材に変えてみたりと学校での活動を飛び越えて、家庭生活で生かし、工夫する姿が見られた。しかし、衣生活の題材では、フェルトの小物作りなどは家庭での実践が見られたものの、布やミシンを使うと形が複雑になったり、端の始末や布の取り扱いなど難しい点が付け加わったりしたせいか、学校での活動にとどまってしまっていた。習得場面で学ぶべき知識や技能を、児童が主体的に身に付ける授業にはなっておらず、どちらかといえば教師がやり方を指導し、児童がその点に気をつけて製作を行うということが当たり前になっていたからではないかと考える。

(3) 指導について

児童自らが学びをつくり出すためには、その目指すべき指標が必要となる。そして主体的に学ぶための「かぎ」が必要となる。「かぎ」とは目的にあった布製品を作るための要素や基準のことである。「かぎ」を手に入れることは、児童が何を目指していったらいいかを意識することにつながり、

その「かぎ」を使って、試行錯誤することで解決へと進んでいけるのではないかと考える。本題材では、その「かぎ」をループリックとしてまとめる。ループリックとは「ある課題をいくつかの構成要素に分け、その要素ごとに評価規準を満たすレベルについて詳細にまとめたもの」である。簡単にいえばどれだけ課題に対して、どれだけ達成できたかをはかる評価のものさしである。

今回はこのループリックを児童自らが作り出すことを題材に位置付ける。題材の導入の段階（第1次）で、題材のゴール（題材を貫く問い）を設定した後、袋物の「試し作り」を行う。今回は「辞書を入れるバッグ」を試し作りで行うこととする。共通の課題にすることで、同じ視点で交流を行ったり、他の児童の製作物と比較したりすることが容易になるからである。以前は学習に必要な「かぎ」は教師と児童との対話の中から導き出し、児童に意識させたり、他の課題で試してみたりして、定着を図ってきた。しかし、今回は児童が他の児童や教材との対話の中から、自分で「かぎ」を見付け出し、その「かぎ」を使っていく学びを自ら進めていくことを目指していく。児童の気付きをつないでいくことで、学びの質が高まっていき、より深い学びへとつなぐことができるのではないかと考える。第2次では、その「かぎ」を使って計画、実践を行い、最後は活動を評価し、さらに次の学びへとつないでいく。そうすれば課題の解決に対してもより主体的になり、児童自らが学びを作り出す姿を目指すことができるのではないかと考える。また、自ら学びをつくり出すことで、できることが増え、自身の変化や成長を感じながら、自分の生活を変えていこうとする児童が育つのではないかと考える。

また指導に際しては、児童の気付きを「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの視点と結びつけながら価値付けていくことで、学びを広げていく。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

- ・製作に必要な材料や手順、製作計画、ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い、材料の無駄のない使い方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ・生活を豊かにする布製品の製作計画及び製作、材料の使い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- ・生活をよりよくしようと、生活を豊かにする布製品の製作計画及び製作、布の無駄のない使い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

(2) 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・材料の無駄のない使い方について理解している。 ・裁断の仕方や印の付け方について理解しているとともに適切にできる。 | 生活を豊かにする布製品の製作計画及び製作、材料の使い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 生活をよりよくしようと、生活を豊かにする布製品の製作計画及び製作、材料の無駄のない使い方について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。 |

4 題材の指導計画（全12時間 本時3・4/12時間目）

| 次 | 時 | 主な学習活動(○) | 指導上の留意点(・) | 評価規準(◆)【観点】 |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| 一 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、できるようになったことを振り返る。 ○身の回りの布製品に目を向け、「題材を貫く問い」を立て、学習の見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を見直すことで基本的なミシン縫いの知識を身に付けてきたことを確認する。 ・「題材を貫く問い」を立てることで、学習の見通しをもたせ、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 | ◆衣生活をもっとよりよいものにするために、生活を豊かにする布製品について、問題を見い出して、題材を貫く問い(課題)を設定している。 【思・判・表】 |
| 布製品を使って、身の回り生活をもっと豊かにするにはどうしたらいいだろう | | | | |

| | | | | |
|---|--------------|---|---|--|
| | 2 | ○辞書を運ぶためのバッグの製作計画を考え、型紙を作る。 | ・5年生ときのランチョンマット製作を参考にしながら、製作計画を立てるようにする。 | ◆生活を豊かにする布製品の製作計画や製作について考え、工夫している。 【思・判・表】 ◆製作する物の目的に応じて形や大きさを考えることが必要であることについて理解しているとともに、適切にできる。 【知・技】 |
| | 3 4 本時 | ○辞書を持ち運ぶためのバッグの「試し作り」を行い、今回の課題に対する解決の「かぎ」を探る。 | ・「試し作り」を行うことで、袋物の際に解決のてがかりとなる「かぎ」を児童自らの手で見付けるようにする。 | ◆生活を豊かにする布製品の製作計画や製作について、目的にあった布製品を作るための要素や基準を考え、工夫している。【思・判・表】 |
| 二 | 5 | ○タブレットを持ち運ぶためのバッグを作るための製作計画を立て、見直す。(個人) ○布の性質について学ぶ。 | ・前時の学習で得た解決の「かぎ」を使って、自分の目的にあったバッグの製作の計画を立てるようにする。 ・様々な布を比較させ、それぞれの布の性質を考え、製作するもの目的や使い方に応じて適切な布を選ぶ必要があることに気付くようにする。 | ◆生活を豊かにするために、学校生活で役立つタブレットを持ち運ぶためのバッグの製作や製作計画について考え、工夫している。 【思・判・表】 ◆材料の布は製作する物の目的や使い方に応じて適したものを選ぶ必要があることについて理解しているとともに、適切にできる。 【知・技】 |
| | 6 7 8 | ○タブレットを入れるバックを作る。 例：トートバック型 ショルダーバック型 ポーチ型 | ・前時の学習で得た解決の「かぎ」を使って、製作を行っていく。 ・ループリックを用いて、今回の実践を振り返り、次の課題を見付ける。 | ◆製作する物の目的に応じて形や大きさを考えること、適した布を選ぶこと、縫い方を変えることが必要であることについて理解しているとともに、適切にできる。 【知・技】 ◆布を用いたミシンによる製作計画や製作について課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。【主】 |
| 三 | 9 | ○家庭が豊かになる布製品を作るための製作計画を立てる。(個人) | ・これまでに学習したことを生かして、自分の家庭生活を豊かにするという目的をもち、意欲的に取り組むことができるようにする。 | ◆家族の一員として、生活をよりよくしようと家庭生活を豊かにする布製品について、製作や製作計画について考え、工夫している。 【思・判・表】 |
| | 10 11 | ○製作計画にそって、家庭が豊かになる布製品を作る。 例：クッションカバー ティッシュカバー | ・前時の学習で得た解決の「かぎ」を使って、製作を行っていく。 | ◆家庭生活を豊かにする布製品の製作や製作計画について、実践を評価したり、改善したりしている。【思・判・表】 |
| | 12 | ○実践報告会をしよう。 ・使った布製品を振り返り学習をまとめる。 | ・ループリックを用いて、今回の実践を振り返り、次の課題を見付ける。 ・「題材を貫く問い」の答えを考えることで、製作すること全般について振り返ることができるようにする。 | ◆家庭生活が豊かになる布製品について課題解決に向けた一連の活動について考えたことを分かりやすく表現している。 【思・判・表】 ◆家庭生活が豊かになる布製品について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って、新たな衣生活の課題について工夫し、実践しようとしている。【主】 |

5 本時の指導 (3・4/12)

(1) 指導目標

生活を豊かにする布製品の製作計画や製作について、目的にあった布製品を作るための要素や基準を考えることができるようにする。

(2) 評価規準

生活を豊かにする布製品の製作計画や製作について、目的にあった布製品を作るための要素や基準を考え、工夫している。
【思・判・表】

(3) 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる手立て

児童の気付きを家庭科の見方・考え方である「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの視点と結びつけながら価値付けていき、児童が自然と4つの視点から生活事象をみることができるようになる。

(4) 展開

| 学習活動と児童の反応【(二)】 | 教師の働きかけと形成的評価(◆) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|---------------------------------|---|-------------------------------------|-----|-------|---|--|---|---|--|---|-------------------------------------|---|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|---------------|----------------|
| <p>1 前時をふり返り本時の活動の流れをつかむ。(2分)</p> <p>・今日は前回作った製作計画をもとにバッグを作るぞ。 ・今日は辞書を入れるバッグを作ってみて、どんな製作のときにも使える「かぎ」を見付けるぞ。 ・◎を目指してがんばるぞ。</p> | <p>1-(1) この題材では、今までの学習スタイルである「知識・技能を習得して活用する」という流れではなく、「みんなの手で学びをつくっていく」「そのためには製作のときにこれを目指せば大丈夫という『かぎ』を見付ける」流れであることをつかめるようにする。 1-(2) 本時では、「試し作り」をすることにより、製作の際に必要な「かぎ」を見付けるよう促す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>バッグを作ってみて、どんなことにも使える「まなびのかぎ」を手に入れよ</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2 「かぎ」を見付ける際の要素について考える。(5分)</p> <p>・「美しさ」や「丈夫さ」は作っていくときには大切にしなくてはいけない。 ・「かぎ」は縫い方のところで見つかるかも。</p> | <p>2-(1) 「試し作り」を行い「かぎ」を手に入れる際、どの製作段階で見付けられそうか問いかける。 2-(2) 「丈夫さ」「美しさ」を意識しながら「印のつけ方」「縫い方」「布の使い方」「手順」などの要素ごとに、「かぎ」となる考え(基準)を見付けるよう促す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3 「試し作り」を行う。(58分)</p> <p>・「印」はできあがりの線とたち線の2つを正確に書くことが美しい作品を作るためには必要だ。 ・きれいなバッグにするには「まっすぐ縫う」ことは絶対に必要。 ・バッグの土台と持ち手はすぐにとれそうだから、「返し縫い」をしておく丈夫になるね。 ・計画を立てたけど、うまくいかないところは作りながら変更していくことも大切だね。 ・端の始末はすべて三つ折りをしてきたけど、袋は中をひっくり返すから二つ折りで十分だ。</p> | <p>3-(1) 「試し作り」を行いながら、随時「かぎ」となる考えをワークシートに記入するよう促す。 3-(2) 製作する際にヒントとなるような製作物を教室内に掲示しておき、思考の手助けとする。</p> <p>◆「試し作り」を行いながら、袋物の製作を行う際に目指すべき基準を考えているか。(ワークシート)【思・判・表】 ○「丈夫さ」「美しさ」を意識しながら、目指すべき基準を複数考えている。 →「なぜそのような縫い方にしたのか」などと問うことで、児童が当たり前のようにしていたことが、実は目指すべき基準であったことに目を向けさせる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4 「試し活動」を振り返る。(ペア) (7分)</p> <p>・袋の持ち手のところは何度も返し縫いをしてし、バッグも返し縫いをした。ほつれやすいところを返し縫いするのだね。 ・実際に作ってみると、思ったよりゆとりがなかったね。どうしたら正確にゆとりのある大きさにできるのだろう。</p> | <p>4-(1) できあがった製作物を見て、袋物の製作で大事な「かぎ」となる気付きを付箋紙に記入することで、ルーブリックを児童の言葉で作れるようにする。 4-(2) 全体交流の際に「かぎ」を見付ける手がかりとなるため、困った点や迷った点、分からなかった点などが製作の際に生じた場合も記入するよう促す。 4-(3) 「かぎ」を記入する際は、どの製作でも使うことができるような記述に変えるよう伝える。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>5 見付けた「かぎ」を整理する。(15分)</p> <p>・ほつれやすいところは、縫い方を工夫する必要があるね。「縫い方」では適切な返し縫いを目指すことが大切だ。 ・三つ折りしたところを縫うためには、端ギリギリを縫わないと、めくれあがって美しくならないよ。美しさを目指すためにはまっすぐ縫うだけではなく、縫うところはきちんと考えないと駄目なのだね。 ・バッグって最後は裏返しにするから、中のところは三つ折りにすると、かえてごわごわして形がきれいにならないよ。「端の始末」は何でも三つ折りすればいいものではないのだね。三つ折りや二つ折りを使い分けることも大切だね。 ・丈夫にするには返し縫いをして縫い方を工夫すればいいと思っていたけど、ぬいしろの幅にも気を付けなければならぬのだね。目的に応じてぬいしろの幅を変えることも目指してみよう。 ・同じようなバッグの形でも「手順」によって仕上がりが全然違うことになるのだね。先生の作った◎バッグは僕たちのバッグと縫う順番が違うみたい。 ・美しいバッグを目指すなら、脇を縫ってから、端の始末として袋の口をくるむように三つ折りにして縫うと、形がとてきれいだね。 ・まっすぐ直線縫いをするのは、○のレベルかな。 ・布を端から使うのは、当たり前だから○だね。 ・目的に応じて使い分けの考え方が◎レベルかな。</p> | <p>5-(1) 児童が挙げた「かぎ」を要素ごとに整理していく。 5-(2) ある程度「かぎ」が出たら、どの「かぎ」が上(◎)の評価で、どれが並(○)かなど整理していくことで、どこを目指していけばいいのかを児童が意識できるように整理し、ルーブリックを完成させていく。 5-(3) 前時の学習で行った「手順」「形や大きさの決め方」「端の始末の使い分け」についても、「試し作り」を行うことで新たに気付いたことがないか問いかける。 5-(4) 意見が出ない場合は、あらかじめ作っておいた◎評価のバッグと児童のバッグを比較することで、「かぎ」を見付ける手助けとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>手順</th> <th>形や大きさ</th> <th>端の始末</th> <th>印のつけ方</th> <th>縫い方</th> <th>布の使い方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>【全体】製作計画にそって製作を進めながら、随時、最適な手順に修正しながら、製作を行うことができる。【美しさ】脇を縫った後、袋の口を三つ折りにして縫うなど、美しい仕上がりを意識した手順で製作を行うことができる。</td> <td>【全体】作る相手、目的を意識しながら、形や大きさを決めることができる。【丈夫さ】袋物の製作の場合は、中に入れるものを考えて、ゆとりを意図して形や大きさを決めることができる。また、目的に応じてゆとりをつけるなど形を工夫することができる。</td> <td>【全体】目的に応じて三つ折りや二つ折りを分け、端の始末をすることができる。【丈夫さ】三つ折りや二つ折りの幅を変えて、目的に応じて使い分けすることができる。</td> <td></td> <td>【全体】目的に応じて縫い方を使い分け、まっすぐに縫うことができる。【丈夫さ】ほつれやすいところを意識し、適切な返し縫いを行うことができる。【美しさ】三つ折りの端のところに縫ったり、まっすぐ直線に縫ったりと美しさを意識して縫い方を工夫することができる。</td> <td>【全体】縫いのことも考え、材料を無駄にしない縫い方を行うことができる。</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>製作計画に沿って製作を進めることができる。</td> <td>既存の形を生かしながら、形や大きさを決め、型紙を作ることができる。</td> <td>三つ折りや二つ折りを分けて端の始末をすることができる。</td> <td>できあがりの線とたち線の印を区別しながら、つけることができる。</td> <td>まっすぐ直線縫いができる。</td> <td>布を端から使うことができる。</td> </tr> </tbody> </table> | | | 手順 | 形や大きさ | 端の始末 | 印のつけ方 | 縫い方 | 布の使い方 | ◎ | 【全体】製作計画にそって製作を進めながら、随時、最適な手順に修正しながら、製作を行うことができる。【美しさ】脇を縫った後、袋の口を三つ折りにして縫うなど、美しい仕上がりを意識した手順で製作を行うことができる。 | 【全体】作る相手、目的を意識しながら、形や大きさを決めることができる。【丈夫さ】袋物の製作の場合は、中に入れるものを考えて、ゆとりを意図して形や大きさを決めることができる。また、目的に応じてゆとりをつけるなど形を工夫することができる。 | 【全体】目的に応じて三つ折りや二つ折りを分け、端の始末をすることができる。【丈夫さ】三つ折りや二つ折りの幅を変えて、目的に応じて使い分けすることができる。 | | 【全体】目的に応じて縫い方を使い分け、まっすぐに縫うことができる。【丈夫さ】ほつれやすいところを意識し、適切な返し縫いを行うことができる。【美しさ】三つ折りの端のところに縫ったり、まっすぐ直線に縫ったりと美しさを意識して縫い方を工夫することができる。 | 【全体】縫いのことも考え、材料を無駄にしない縫い方を行うことができる。 | ○ | 製作計画に沿って製作を進めることができる。 | 既存の形を生かしながら、形や大きさを決め、型紙を作ることができる。 | 三つ折りや二つ折りを分けて端の始末をすることができる。 | できあがりの線とたち線の印を区別しながら、つけることができる。 | まっすぐ直線縫いができる。 | 布を端から使うことができる。 |
| | 手順 | 形や大きさ | 端の始末 | 印のつけ方 | 縫い方 | 布の使い方 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎ | 【全体】製作計画にそって製作を進めながら、随時、最適な手順に修正しながら、製作を行うことができる。【美しさ】脇を縫った後、袋の口を三つ折りにして縫うなど、美しい仕上がりを意識した手順で製作を行うことができる。 | 【全体】作る相手、目的を意識しながら、形や大きさを決めることができる。【丈夫さ】袋物の製作の場合は、中に入れるものを考えて、ゆとりを意図して形や大きさを決めることができる。また、目的に応じてゆとりをつけるなど形を工夫することができる。 | 【全体】目的に応じて三つ折りや二つ折りを分け、端の始末をすることができる。【丈夫さ】三つ折りや二つ折りの幅を変えて、目的に応じて使い分けすることができる。 | | 【全体】目的に応じて縫い方を使い分け、まっすぐに縫うことができる。【丈夫さ】ほつれやすいところを意識し、適切な返し縫いを行うことができる。【美しさ】三つ折りの端のところに縫ったり、まっすぐ直線に縫ったりと美しさを意識して縫い方を工夫することができる。 | 【全体】縫いのことも考え、材料を無駄にしない縫い方を行うことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | 製作計画に沿って製作を進めることができる。 | 既存の形を生かしながら、形や大きさを決め、型紙を作ることができる。 | 三つ折りや二つ折りを分けて端の始末をすることができる。 | できあがりの線とたち線の印を区別しながら、つけることができる。 | まっすぐ直線縫いができる。 | 布を端から使うことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>6 まとめる。 (3分)</p> <p>・「かぎ」が完成したから、これを使って自分オリジナルの◎のタブレットバッグを作ってみるぞ。</p> | <p>6 次は自分で布を選び、自分の目的に合ったタブレットを運ぶためのバッグを作っていくという流れを伝える。</p> |
|--|--|

授業の実際と考察 ～第6学年「思いを形に～生活を豊かにする布製品～」の実践を通して～

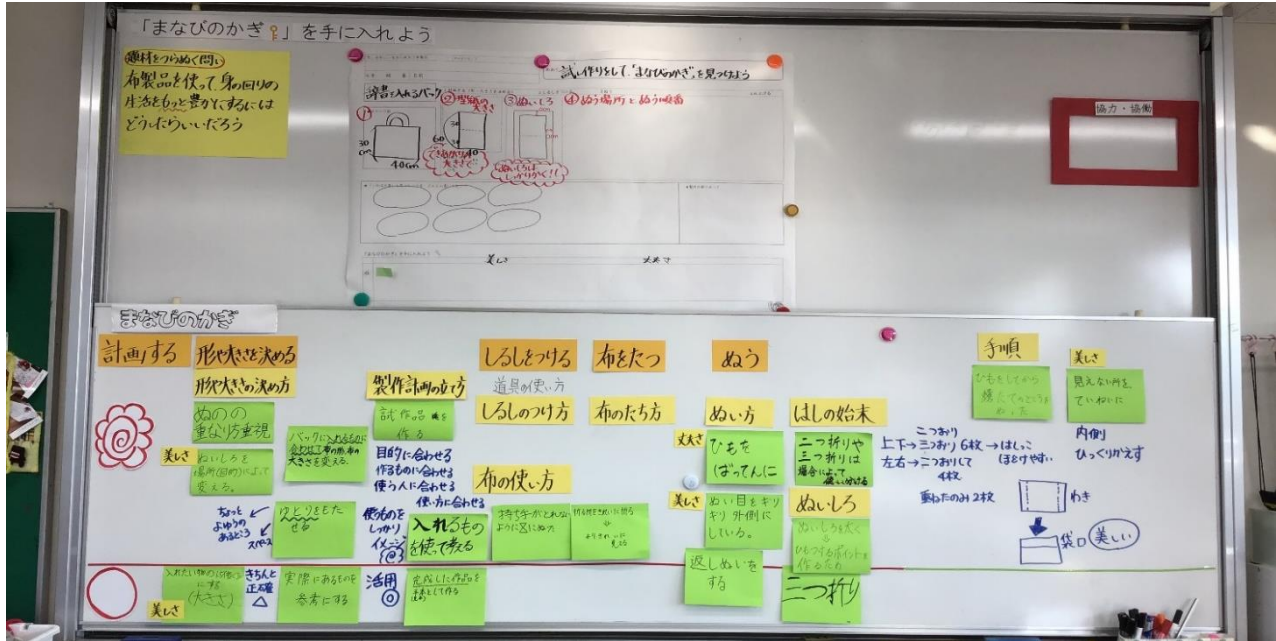


図1 本時の板書

- (1) 生活事象から自身の生活の問題点や課題などを見出し、学習問題を見出す力の育成
 題材の導入として、これまでの学習をふり返り、衣題材の学習でできるようになったことを振り返った。そして自身の生活を見つめなおし、問題となっているところはないか、もっと生活を豊かにすることができないかについて気づきを発表することができた。そして、学びをさらにレベルアップして、なりたい自分をイメージすることから「布製品を使って、身の回りの生活をもっと豊かにするにはどうしたらいいだろうか」という学習問題を見出すことができた(図1)。
- (2) 学習問題について、何を学ぶべきか考え、解決策を見出す。
 「布製品を使って、身の回りの生活をもっと豊かにするにはどうしたらいいだろうか」という学習問題を提示した後、実際にどんな製作物を作りたいか具体的にイメージさせた。すると児童は「ブックバックを作りたい」「きんちゃく袋を作りたい」と今までの平面的な製作物から発展して袋物をイメージしていた。その製作物を作るにはどんなことをさらに学ばばいいかと問いかけると「今度は立体になるからゆとりのある製作物の大きさの取り方を知りたい」「きんちゃくのひものところをどういう風に作るのか知りたい」と気づきを書くことができた。何を学んだら、学習課題の解決につながるのかを具体的にイメージし、自分の考えを書くことができた。
- (3) 実習や製作などの活動を通して、学びを整理し、考察する力の育成
 製作計画や製作過程で気づいたことを図や言葉で分かりやすく表現することができた。
- (4) 身に付けた知識や技能を整理し、次への課題に結びつける力の育成
 問題解決で得られた結論を整理する場面では、身に付けた知識や技能を今回の製作物に合わせた表現ではなく、どの製作物でも使えるような表現の形にかえるよう指導を行った。これは、具体的な知識や技能を概念的な知識や技能へとつなげるためである。知識や技能を整理することで、何が課題なのかを知ることができ、次への課題へと結びつける力の育成につながると考える。